

大地と生態系と人の物語

「どうして祖谷にかずら橋があるの？」  
「かずら橋から見るジオストーリー」



【写真1】祖谷川のひの字溪谷。  
ここを含め、祖谷川全体がV  
字谷地形。

3年に一度の架け替え工事が完了した西祖谷のかずら橋。現在、三好市の中でも多くの観光客が訪れる観光地の一つです。

今回の「ジオパークを知ろう」では、この「かずら橋」にスポットを当てたいと思います。

いつからかずら橋はあるの？

現在かずら橋がある地域は、西祖谷善徳地区（祖谷のかずら橋）と東祖谷菅生（奥祖谷二重かずら橋）で、両方ともシラクチカズラを使用し架けられた吊り橋です。

今から353年前に作成された江戸時代の「阿波国図」には、祖谷川に架けられた多くのかずら橋が描かれていました。この当時は祖谷だけでなく、木頭村や高知県香美郡に

もかずら橋が架けられていました。

なぜ祖谷にかずら橋があるの？

昔は、交通路として利用されていたかずら橋ですが、この川にもあったわけではありませぬ。同じ四国山地を貫く吉野川には、かずら橋は一つも架かっていませんでした。それはなぜでしょうか。

その答えは川幅と両岸の地形にあります。吉野川は祖谷川に比べて川幅が広いのが特徴です。また池田町や井川町の前を流れる吉野川の両岸は平地になっています。

川幅が広いことや平地があることから、吉野川では「かずら橋」を架けるのではなく、舟による往来「渡し」が交通手段として使われていました。

かずら橋の架かる祖谷川は、谷が深く川幅が狭い地形です。その地形はまるでVの字のような地形をしていることから「V字谷（ぶいじだに）」と呼ばれています（写真1）。祖谷川周辺の山々をはじめ

め、四国山地全体が現在も隆起しています。その山間部には太平洋や中国地方からきた湿った空気がぶつかり、大量の雨や雪を降らせませぬ。そしてそれが集まり、急勾配の川を作り出します。この一連の過程によって、川の侵食（土砂が削られる）作用が働き、V字谷が作られるのです。

かずら橋は特別な存在

このようにかずら橋があるのは、かずら橋という祖谷の特徴的な文化を守りつないできた人々がいたこと、そしてそれを育んだ特徴的な大地があつたからです。どの過程が欠けていたとしても現在のかずら橋は存在しなかつたでしょう。

報告 ジオパーク三好検定を実施しました

今年1月に三好市教育委員会では、三好市内の中学1、2年生を対象に「ジオパーク三好検定」を実施しました。受験問題は30問で、そのうち

25問以上正解すると「名人」、20〜24問正解で「初段」、15〜19問正解で「1級」、10〜14問正解で「2級」、9問以下正解で「3級」とし、実施しました。受験者数は327人で、そのうち名人が47人でした。

実施した中学校の一つ、池田中学校の生徒たちは実際にジオパーク三好検定を受けて、「この検定を通して、いろんな地形や自然の素晴らしさを学ぶことができました」「や「何気なく住んでいるこの地元は見方を変えればたくさんの特徴があつて、歴史的にも面白いことであふれていることを知りました」などの感想を述べています。

ジオパークの活動では、地域の中の「大地」「生き物」「歴史文化」のつながりを知り、活用することが大切です。今回の検定をきっかけに、三好市の地域資源のつながりをどんどん学んで誇りをもってもらいたいと思います。

【お問い合わせ先】

三好市教育委員会文化財課  
電話 72・3910



三好市教育委員会 生涯学習・スポーツ振興課 勤務

すすきた 薄田 かつひこ 克彦



ウェイクボードW杯いよいよ開幕

三好市での初冬、給湯器が凍ってお湯が出ないという初めての経験に驚き、日差しに春の気配を感じながら桜シーズンを待ち遠しくしています。

いよいよウェイクボードW杯の開催です。世界中の選手が三好市に集結し、プロ、アマ（年齢別）の世界一を決定する世界でも歴史と栄誉あるW杯が開催されます。ポルトガル、カナダと三好市（日本）がW杯の開催に立候補し、三好市が勝ち取れたのは、「イケダコ」が山に囲まれて風の影響を受けにくく、一日中穏やかな水面を望める環境、素晴らしい山と川の自然があることなども要因ですが、黒川市長が地域振興のため

に「ウォータースポーツのまちづくり」を掲げておられ、世界ウェイク協会のシャノン会長が、その熱意に感銘したことが勝ち取れた大きな要因でした。

W杯を通じて、世界の人々に三好市の大自然の素晴らしさを感じていただき、「ウォータースポーツのまちづくり」を実現して、地域を元気にしていきたいので、皆さまぜひ応援よろしく願います。

ウェイクボードとは？

競技は、直線約400mのコースを1往復し、ボートの走行時にできるひきなみ（ウェイク）をジャンプ台にして飛び上がり、縦回転や横回転と変幻自在に技を繰り出し、その技のジャンプの高さや難易度で順位をつけます。

W杯ホームページ (www.cooljapan.life)

【お問い合わせ先】

アウトドアスポーツ推進 薄田  
090・3491・3966

三好市役所 地方創生推進課 勤務

いのうえ 井上 たくと 琢斗



高校生による祖谷の体験プログラムづくり

高校生や大学生を対象とした、地域での研修やインターンシッププログラムを企画・運営しています。この冬に徳島市の県立城ノ内高校の生徒たちが西祖谷の徳善地域を訪れました。

3グループに分かれて各家庭を訪問し、地域の文化、自然、伝統などについて話を聞き、一部実際に体験してみながら、地域の魅力について探索しました。

祖谷といえば秘境の地、傾斜地農法など有名ですが、そうした文化をつくるのは地域の人々です。そこで、人々がどういった生活をして

いるのかを明らかにし、観光で訪れた人がその一部を学び、体験できる仕組みづくりを進めています。

生徒たちには体験プログラムの看板デザインを考案することに取り組んでもらいました。山伏体験や襖からくりと演劇部のコラボ、みんなでつくるミニかずら橋など、さまざまなプログラムが考案され、地域からは「自分たちだけでは出なかつたアイデアばかり」、「地域を盛り上げるために何をすればいいか分かつた」との声が聞かれました。

生徒たちはほとんどが祖谷の地域へ入り込んだことはなく、今回のプログラムを通して、「こんなに面白い文化があるとは知らなかつた」、「人がみんな優しく心豊かな感じがした」、「なんとなく都会に行きたいと思つてきたが、地方に残るのも良いと思つた」などの意見が聞かれました。今後はこのアイデアの実現に向けて地域と協働してまいります。



④ 各家庭を訪問し、地域の魅力を探る  
⑤ 考案した看板デザインを地域の方に説明